

若槻養護学校 基本方針検討懇談会

第1回発言要旨

1 期 日

- 令和元年6月5日（水）10：00～12：00

2 内容の概要

○ 懇談会の開催

- ・児童生徒一人ひとりの可能性を最大限伸ばす学校、地域社会との連携によるインクルーシブな社会をリードする学校の実現に向け、老朽化が著しい若槻養護学校の今後のあり方について検討する。
- ・県下に2校しかない病弱特別支援学校のうちの1校であり、東北信地域唯一の病弱特別支援学校として、東北信地域のニーズに応じていく若槻養護学校の今後のあり方について検討する。

○ 病弱特別支援学校である若槻養護学校の現状と課題

【センター的機能】

- ・6校ネット¹の連携に加え、医療、福祉、行政、院内学級とも連携が必要である。
- ・ワンストップで依頼者の相談に応じられるよう、すでにある機能を整理し依頼者が確実に教育相談担当者につながる仕組みを整備していく必要がある。

【対象となる児童生徒について】

- ・在籍児童生徒に加え、今後は東北信地域の学校で学んでいる病弱の児童生徒の支援に係る相談ニーズの把握と対応が必要である。

【医療機関（東長野病院）との連携】

- ・在籍児童生徒の障がい種がこれまでの慢性疾患から発達障がい²に起因する精神疾患中心に変化していることに伴い、主治医が東長野病院以外にいるケースが増加している。
- ・発達障がいの増加に伴い、東長野病院の受診者が増加し受診が3か月待ちになっている。

【副学籍制度】

- ・多様な学びの場の提供やインクルーシブな教育を推進する拠点校として、副学籍制度の利用をさらに進めていきたい。
- ・復学²に不安を抱いている本人や保護者に対し、副学籍制度について分かりやすく伝えるとともに、地元の学校や市町村教育委員会等と連携し復学に向けた支援を行っていくことが必要である。

1 長野盲学校・長野ろう学校・長野養護学校・稲荷山養護学校・若槻養護学校・須坂市立須坂支援学校（信州大学教育学部附属特別支援学校）の相談担当者による情報交換・共有機能

2 病状が回復した後に地元の小・中学校に復帰をすること